

ふるさと じまん

わたしのお気に入り

神奈川県 藤沢市



湘南の要・藤沢市と 湘南の宝石・江ノ島

鈴木聡行
(昭和59年卒)

「湘南ボーイ」という言葉は今や死語となってしまいましたが、古くは湘南高校卒業の石原慎太郎氏の小説「太陽の季節」や茅ヶ崎市立第一中学校卒業の加山雄三さん主演映画「若大将」シリーズ、最近でもサザンオールスターズや湘南乃風の楽曲の舞台として、きらめく太陽、輝く海のイメージとともに、今なお「湘南」という地名はちょっとしたブランドだと湘南学園卒業の自称湘南ボーイの私は、勝手に自負をしています。

「湘南」とは、「大人の事情や各市町村のプライドや対抗心の問題」があり未だ定義や範囲が諸説入り乱れ収拾がついていない状態ではありますが、そのブランド力、知名度、認知度、好感度、発信力などは圧倒的なものがあり、底知れないパワーと魅力を兼ね備えている素敵な言葉の地名です。

そんな「湘南」の海に象徴される豊かな自然環境や、江ノ電を始め鉄道3社が乗り入れる交通利便性の高さや「主婦が幸せに暮らせる街ランキング」で全国1位と子育て環境に優れた市である「湘南の要」と言われる我が町「藤沢市」とそのシンボルで「湘南の宝石」と称される「江ノ島」についてご紹介させていただきます。

藤沢市の歴史

鎌倉時代に遊行四代上人呑海が藤沢の大鋸に時宗総本山「清浄光院」(遊行寺)を創建し、以後藤沢は大鋸周辺を中心に門前町として栄えました。現在の遊行寺と御本尊の阿弥陀如来坐像です。江戸時代になると、徳川家康は関東各地に將軍宿泊用の御殿を置き、藤沢には慶長元年に、徳川家康、秀忠、家光の3代が利用した藤沢御殿が設置されました。参勤交代が始まると大名の宿泊施設として

民間の本陣、脇本陣などが整えられ御殿は廃止されました。その後慶長6年に東海道五十三次の六番目として藤沢宿ができ、門前町に加えて宿場町として発展していきました。藤沢宿は主要街道(東海道、鎌倉道、大山道、江の島道)の分岐点として通行する人々で賑わい、特に大山詣や江ノ島詣での旅人の宿泊、遊興の場所として旅籠屋や商家が繁盛していきました。明治時代になると宿場制度が廃止されましたが、地の利を生かした問屋業を中心に発展、また農



1 遊行寺 2 ご本尊



3 藤澤橋たもとの鈴木デンタルクリニックビル階上より遊行寺方面を望む

3 浮世絵 4 折り返し江ノ電 5 江のピコ

作物の集積場として肥料販売業や農作物を買い入れる米穀肥料商が居を構え流通地として栄えました。そして、明治20年に鉄道が通ると、商業の中心は大鋸周辺から駅周辺に移っていきました。明治41年4月に藤沢大坂町・鶴沼村・明治村が合併して高座郡藤沢町が発足しました。そして、昭和15年10月に藤沢町が市制を施行し藤沢市となりました。その時の人口は約3万人で、82年後の現在約44万人まで増え神奈川県4番目の人口を誇る湘南の中心都市となりました。

浮世絵

江戸後期には、当時の旅行ブームを背景に、各宿場の名所・旧跡を描いた東海道五十三次シリーズが版行され、藤沢宿も多種多様に描かれています。歌川広重の浮世絵には、藤沢宿の代表的な名所・旧跡である遊行寺、遊行寺橋、江島神社一の鳥居（江の島道入口）が描かれています。一の鳥居付近に位置する当院から広重の浮世絵を現在の風景に当てはめて撮影してもらった写真です。左の赤い橋が「遊行橋」で右上の屋根が「遊

行寺」で右端の坂が箱根駅伝3区の名物坂の「遊行寺坂」です。

江ノ島

江島神社への信仰により江ノ島詣が盛んとなり、藤沢宿ではそのための道が形成されていきました。江ノ電の発祥は、この江ノ島詣での利便のために鉄道が発起されたことにあり、明治35年9月に日本で6番目の電気鉄道として藤沢から江ノ島へ走り始めました。明治43年11月に藤沢から鎌倉小町間10.27キロメートルが開通し、昭和24年3月に横須賀線鎌倉駅西口に乗り入れ、現在の藤沢～鎌倉を結ぶ人気路線となりました。そして、令和4年に江ノ電は120周年を迎えました。

それでは、江ノ電に乗ってご一緒に江ノ島散策に出かけましょう。藤沢駅は、江ノ電ビル2Fに改札があります。江ノ電は単線ですので、藤沢駅の線路は1線路です。折り返しの江ノ電が入ってきました。さあ、江ノ島に向かって出発です。

江ノ島駅は、2面2線の交換駅で鎌倉からの電車連絡をします。



駅舎前の車止めで「江のピコ」がセーターを着て迎えてくれます。

洲鼻通り

江ノ島駅から江ノ島まで続く通りは、並行して流れる境川の鼻先という意味から「すばな（洲鼻）通り」と名付けられ、江戸時代から多くのお店や旅籠屋が軒を連ねる江島神社詣参道として栄えてきました。100年続く羊羹の老舗「玉屋本店」や開店したての店舗を楽しむながら通りを進むと、眼前に思わず声を上げてしまう様に江ノ島が見えてきます。

江ノ島弁天橋

江ノ島入口交差点の地下通路を抜けると、江ノ島に渡る橋があります。橋のたもとは江ノ島が歴史的な風光明媚な場所であることを示す石碑が建っています。橋上は富士山のビュースポットです。



6 ビュースポット



7 名勝と史跡 8 青銅の鳥居 9 朱の鳥居・瑞心門 10 辺津宮 11 奉安殿

江ノ島と江島神社誕生秘話

昔むかし、鎌倉の深沢山中の底なし沼に5つの頭を持つ悪龍が住み着き、村人を苦しめていました。子供を生け贄に取られることから、この地を子死越（現在の腰越）と呼んで恐れられていました。ある時（552年）、子死越前方の海上に密雲が何日にも亘って垂れ込め、天地が激しく揺れ動いた後、天女が現れ、雲が晴れると海上に1つの島ができていました。これが江ノ島です。天女の美しさに魅せられた五頭龍は、結婚を申し込みますが、悪行が止むまではと断られてしまいます。その後、五頭龍は心を改め村人のために雨を降らせたり、台風などの自然災害を防いだりと、世のため人のために善行を尽くし天女と結婚することができたと言われていました。この伝説の天女が、江島神社に祀られている弁財天であり、五頭龍は龍口明神社として鎌倉市腰越に祀られています。

青銅の鳥居

江ノ島入り口にある江ノ島道三の鳥居「青銅の鳥居」をくぐって、いよいよ江ノ島散策開始です。一の鳥居は遊行寺前に、二の鳥居は洲鼻通りにありましたが、現存するのはこの鳥居のみです。正面の額には「江ノ島大明神」と書かれ

ています。

朱の鳥居・瑞心門

お土産や人気のたこせんべいなどの食べ歩きのお店が並ぶ「弁財天仲見世通り」を上って行くと、江島神社の入り口となる色鮮やかな朱の鳥居に着きます。朱の鳥居正面の石段を見上げると「瑞心門」が見えます。龍宮城を模した楼門で、人々が瑞々しい心でお参りできるようにと名付けられたそうです。瑞心門の石段を登らずに江島神社へ行くには、左側にあるエスカターを使います。2022年9月にリニューアルしたエスカターは、アミューズメントパークの乗り物のようなのです。第1区間を降りると江島神社最初の社殿、辺津宮に到着です。すぐそばには「天女と五頭龍伝説」に由来し、龍を祀った龍の銭洗があります。

江島神社（えのしまじんじゃ）

江島神社境内にはスサノオノミコトの娘である宗像三姉妹神を祀る三宮があり、総称として「江島神社」と言います。芸能上達、財宝福德、良縁成就にご利益があります。

まず、一番手前が辺津宮で、田寸津比賣命（たぎつひめのみこと・三女）を、島の中央が中津宮で市寸島比賣命（いちきしまひめのみこと・次女）を、島の最奥に

長女多紀理比賣命（たぎりひめのみこと）を祀る奥津宮があります。辺津宮の境内の八角のお堂奉安殿には、八臂弁財天と日本三大弁財天の1つとして有名な裸弁財天の妙音弁財天が祀られています。

辺津宮からエスカター第2区間に乗ると中津宮に着きます。そして、エスカター第3区間の終点は江ノ島頂上となります。江ノ島の頂上には「サムエル・コッキング苑」があります。

サムエル・コッキング苑

イギリス貿易商だったコッキング氏が別荘として造園した庭園で、江ノ島植物園を経て、現在に至っています。四季折々の草花が植えられている緑豊かな庭園です。このコッキング苑の中に「江ノ島展望灯台・江ノ島シーキャンドル」があります。

江ノ島展望灯台・

江ノ島シーキャンドル

高さ60mの展望台まではエレベーターで一気に上がり、360度の景色を展望することができます。絶景です。コッキング苑から島の奥に下って行くと、海鮮を扱う飲食店が軒を並べています。是非、サザエや生しらすなどを食べてみてください。江ノ島満喫気分が上がります。



12 灯台 13 展望台 14 奥津宮 15 八方睨みの亀
16 龍恋の鐘 17 江ノ島神社発祥の地 18 赤龍 19 稚児ヶ淵

奥津宮

島の最奥に長女多紀理比賣命（たぎりひめのみこと）を祀る奥津宮があります。

この奥津宮拝殿天井に書かれたどこから見てもこちらをにらんでいる様に見える「八方睨みの亀」が有名です。

龍宮（わだつのみや）

奥津宮の隣にあり、岩屋本宮の真上にあたる場所に建てられたお宮です。江ノ島は、湧出以来、龍神の坐すところとなり、古来、龍神信仰は弁財天信仰と習合されていたので、御祭神は龍宮大神です。龍が描かれたお守りがあります。

龍恋の鐘

龍宮から横道を上がると「龍恋の鐘」があります。江ノ島誕生伝説「天女様と五頭龍」を元に設置された鐘で、海を見下ろす高台にある鐘はよく響きます。その回りには無数の南京錠が掛けられていて、2人の絆が祈られています。

岩屋

岩屋は江ノ島散策の最終地にな

ります。青銅の鳥居から歩いて1時間ほどで夕日の絶景で有名な稚児ヶ淵に着き、その先の岩屋橋を渡ると岩屋の入り口です。552年の天変地異の結果、江ノ島が出来、波の浸食で作られた海蝕洞窟に、江ノ島弁財天を祀ったのが始まりといえます。ロウソクを受け取り中に入ると、そこは神聖で厳かな幽玄の世界です。歴代の将軍や天皇に守られてきた信仰の場所は、崇高な空気に包まれていました。

弘法大使や日蓮聖人も修行した場所と伝えられています。江島神社発祥の地が洞窟の中にありました。第2岩屋の一番奥の龍神様の前で手を叩くと、真っ赤な龍神様が現れ、龍神信仰を肌で感じる事が出来ました。

岩屋から出てくると目の前の稚児ヶ淵から富士山が見え、「あ～湘南」を実感しました。

以上、江ノ島散策は如何だったでしょうか？

さて、「ふるさとじまん」を江

ノ島自慢とさせていただきましたが、江ノ島を歩いてみたくなりましたでしょうか？

現在藤沢市はファミリー世帯を中心に転入超過が続いていて「選ばれる街」として人気があります。全国的に人口減が加速する中、今年4月藤沢市は人口推計を上方修正して2035年まで人口増加が続くとしました。都市の実力は人口で示されますが、その要因について市長は「自然や教育、子育て、交通の利便性など住みやすい生活環境が藤沢にはそろっているからだ」と答えています。藤沢市口腔保健条例を制定した歯科医療関係者としては、市民の口腔健康管理を通して選ばれる街の要因に貢献をしていることを自慢していきたいと思っています。

*「江ノ島」と「江の島」

現在正式には「江の島」表記ですが、歴史的な表記は「江ノ島」が多く見られます。本原稿は「江ノ島」で統一させていただきました。